

風に吹かれて

◇65◇

昨秋来日したオランダの芸術家ロレマさんから花の球根をいただいた。「何の花が咲くのかお楽しみに……」彼女は、いたずらっぽく笑い顔で言ったが、少し後になって、東京のある美術展で、知人にアムール貝に挟んだ小さな白い花を数本プレゼントしたことで、スノーフレークの花の球根だということが分かってしまった。

スノーフレークは小さな雪の塊を意味し、

日本名は大待雪草^{オキザリス}。昭和の初めに日本で初めて花を咲かせたそうだ。よく似た花にスノードロップという花がある。大正時代に日本に持ち込まれ、和名は待雪草。こちらもスズランのようなきれいな花を咲かせる。スノーフレークは背も高く1本の茎に数個の花を付け、スノードロップは背は低く1本の茎に1個の花しか咲かない。今まで全く同じ花と思っていた二つの花が、

スノーフレークの花を知って



スノーフレークは優しい気持ちを
感じさせる花だ

実は花の模様も少し違っているのが分かった。

ロレマさんは、ノール平和賞女性第1号受賞者、ベルタ・フォン・ズットナーの銅像

作品を作った女性で、過去に、紛争があった地域で家族を失ったり

心が傷ついたりした子供たちの心のケアのためにあちらこちらを訪れ、絵画指導をしている。

せっかくだいだいた球根を自分たちで楽しむだけではなく、球根や花の苗をもっと増やし、ロレマさんの平和

への願いの気持ちをもっと多くの人に知っていただきたいと、「スノーフレークの花の会（仮名）」を友人たち

数人でつくり、1月に発会式を行った。チームリーダーにと皆が決めていた千津さんという女性が、発会

式を見届け安心したように天国に旅立った。私たちは知らなかったけれど、彼女は身体の中に重い病気を抱え、

ここ10年、病と闘っていたそうだ。私は彼女と花の絵本を作ろうと約束し、彼女が元気になる日を待っていた。

葬儀の日、私は彼女に呼びかけた。「あなたは私たちの心の中で生きています。スノーフレークの花を多くの人に育てて頂くための準備はチームが引き受けました、花の絵本もきつと作ります」

園芸上手のメンバーが今、苗を育てている。

【作家、村尾靖子】